

「マクロ経済学」試験問題

(担当者名：蓮見 亮)

2019年7月31日(水) 9時00分～10時00分施行
・試験時間 60分、問題用紙1枚(全2ページ)、解答用紙別紙、解答用紙のみ提出 ・電卓のみ持ち込み可(関数電卓可、スマートフォン等不可)

問1. GDP(国内総生産)について、以下の問に答えなさい。

I. GDPの定義を説明しなさい。

II. 実質GDPを社会の経済的福祉の尺度として考えた場合、不十分な点がしばしば指摘される。どのような点で不十分か、必要に応じて「環境」「余暇」という用語を用いて説明しなさい。

III. 次の表をみて、(1)～(6)の2018年の値を答えなさい。(4)～(6)については、小数点以下第2位を四捨五入した値を回答すること。

【2018年の実質国内総生産(2011年価格)】

【2018年のデフレーター】

民間最終消費支出	300
民間住宅	15
民間企業設備	87
政府最終消費支出	107
公的固定資本形成	25
在庫変動	1
財貨・サービスの輸出	93
財貨・サービスの輸入	95

(単位：兆円)

GDPデフレーター	103
(単位：2011年=100)	
【2017年の国内総生産】	
実質GDP(2011年価格)	530
名目GDP	545

(単位：兆円)

- (1) (一国全体の) 投資
- (2) 財貨・サービスの純輸出
- (3) 実質国内総生産
- (4) 名目国内総生産
- (5) 実質成長率(%)
- (6) 名目成長率(%)

IV. 名目GDPと実質GDPのどちらが社会の経済的福祉の尺度として適切か。名目GDPか実質GDPのいずれかを解答した上で、その理由について説明しなさい。

問2. 以下の各状況は、消費者物価指数の作成において生じる問題、1. 代替バイアス、2. 新しい財の導入、3. 測定されない品質の変化、のいずれを例示するものだろうか。1～3から最も適切なものを1つ選択し、解答欄に記入しなさい。

- (1) スマートフォンの発明
- (2) 自動車へのエアバッグの導入
- (3) パソコン価格の下落による購入量の増加
- (4) レーズン・ブラン1袋に含まれるレーズンの量の増加
- (5) ガソリン価格の上昇による低燃費自動車の使用の増加

問3. 短期の経済変動について、以下の問に答えなさい。

I. 以下の文章を読んで、に入る適切な語句を次の枠線の内の語句から選んで記入しなさい。

硬直賃金理論	利子率効果	期待	物価水準	自然産出量
総需要・総供給モデル	右上がり	垂直	右下がり	

- ・ 短期の経済変動は、 (A) により描写できる。このモデルでは、横軸に産出量、縦軸に物価水準をとると、総需要曲線は (B)、長期の総供給曲線は (C)、短期の総供給曲線は (D)である。
- ・ 総需要曲線が (B)であることは、 (E)により説明できる。
- ・ 短期の総供給曲線が (D)であることは、 (F)が人々の (G)する水準から乖離すると、供給量が (H)から乖離するためであり、 (I)、硬直価格理論などから説明できる。

II. 当初、経済が長期の均衡にあると想定する。

(1) 答案用紙の図に「総需要曲線」、「短期の総供給曲線」、「長期の総供給曲線」、「均衡点」(A点とする)を書き入れなさい。

(2) いま、災害の発生により物流網が混乱し、企業の生産コストが短期的に期待していた水準よりも高くなったとする。この場合、短期の総供給曲線がシフトする。答案用紙の図に「シフト後の短期の総供給曲線」、新しい「均衡点」(B点とする)を書き加え、右のボックス内にこの災害の発生が経済に及ぼす短期的影響の説明を記入しなさい。

問4. 以下の各問を読み、正しい選択肢を1～4から1つ選んで解答しなさい。

(非公開)